

はぐくみ会だより

第 30 号

平成22年11月 1日



所蔵作品紹介

(29)

「二宮金次郎像（諱 尊徳）」

松村 秀太郎 作

（高さ 30 cm）

昭和30年代頃までに生まれた方々には、懐かしく思い出される像ではないだろうか。昨今、見かけることがなくなったが、かつて小学校の校庭によく目にした「二宮金次郎」の像である。この像は、金次郎が少年時代に勤労しながら勉学に励む姿を表したもので、子供たちの手本となるよう昭和初期から日本全国の小学校に設置されていたようである。原作者は彫刻家岡崎雪聲で、明治43年（1910年）に東京彫工会に出品するために制作している。

さて、本校美術館が所蔵する作品は、高岡の銅器組合が全国から発注を受けたおり、本校卒業生である松村秀太郎先生が依頼され作られた作品である。全国でよく見られた像のほとんどが銅鑄造を地場産業とする地元高岡で生産されていたことは、驚きであり誇りでもある。

先生は明治38年に本校を卒業され、その後東京美術学校彫刻科塑像研究科に進学。大正6年から昭和14年までの22年間本校にて教鞭を執られている。残念ながらこの作品がいつ作られたかは定かではない。当美術館では、この原型を3体所蔵しているが、内2体では「和綴じ本を持つ左手」と「柴を背負う背負子（しよいこ）の一部」が永らく欠損していた。そこで、先般本校工芸科職員である本野雅宏講師が蠟型にて部品を作成し、六家敬吉教頭との共同作業により、鑄造、仕上げ加工を施した後接合し、何とか修復を終えることができた。

二宮金次郎は江戸時代の農政家として、「積小為大、勤勉、分度、推譲」を掲げて村を興し、地域振興に努めたことが近年再認識されていることなど、マスコミで報じられている。

この度の常設展Ⅱ期で、皆様にお披露目ができ喜ばしい限りである。

同窓生ギャラリー

第58回

「米納家族展」

4月27日(火)～5月23日(日)



▲米納ご一家と高橋市長



▲米納氏の彫塑作品

彫刻家米納宗宏氏ご一家の作品約30点が展示された。宗宏氏の作品は、平成21年の第10回桜の森彫刻コンクールに入選した「灯台のある風景」、また3体の女性美を追求した巨大なフォルムの石膏像は会場を圧倒する迫力であった。奥様の睦子さんはイラストレーターで、やさしく詩情溢れるちぎり絵を14点、そして長女の千智さんは、自身が制作に携わったテレビアニメーションの背景画7点を展示された。

また、会場内には粘土で自由に造形遊びが楽しめるワークショップも設けられ、親子で動物などを作っておられる微笑ましい姿も見受けられた。期間中は高橋正樹高岡市長も来館され、家族揃って作品を制作されていることに感心され、興味深げに鑑賞されていた。

第59回

「第3回夢散歩展」

6月1日(火)～6月27日(日)



▲山に遊び唄う演奏会

創作に打ち込む有志が集い合って結成された本展も第3回展を迎え、「洋画」磯部正子、田村紀子、本郷正典、岡山寛、豊本外良、「陶芸」草島誠一「写真」磯部俊彦の各氏が各々4点の作品を持ち寄り、グループ展を開催された。それぞれに高岡市展洋画部門大賞、県展洋画部門奨励賞、佳作等の受賞や入選経験を持っておられ、現在、活躍めざましい方々の展覧会であった。

また、今回初めての試みとして、6月10日にはギター、オカリナ、ハーモニカによる「山に遊び唄う演奏会」、20日にはギターの弾き語りによる「夢と音を語る集い」が開催され、いずれも約六十人の聴衆が集まった。普段静かな美術館も、響き渡る歌声や演奏に包まれ、大変和やかで楽しい雰囲気になった。

常設展 I 期

4月27日(火)～7月30日(金)

「絵画・工芸(漆工)」

今期展示の絵画は、「山岳」をテーマとした日本画を中心に、今井玄花「天山(剣山)」、立野雪郷「二月の農家」2点の他、計14点を展示した。

工芸(漆工)では、高岡漆器の源流を辿り、「菓子器」を中心に「存星三仙果八陵菓子器」や「藤青貝塗菓子器」他20点と「卓・文台」8点、計30点を展示した。



▲「存星三仙果八陵菓子器」

常設展 II 期

9月14日(火)～11月7日(日)

「絵画・工芸(金工)」

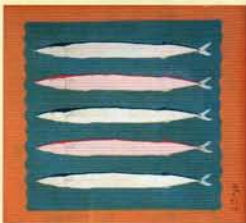
今期展示の絵画は、明治・大正初期の卒業制作品を新たに表装した軸3点の他、山崎覚太郎「秋刀魚」、塩崎逸陵「瓢箪」の日本画、盤若一郎「公園夕景」の油絵等を含めた10点を展示した。

工芸(金工)では、高岡銅器の発展の源を辿る意味で、「原型二宮金次郎像(3体)」や、動物をテーマにした「銅製鶏白置物」、「銅製木菟猿柏木置物」、「銅製鸚鵡置物」、また、大塚秀之丞と松村秀太郎による「狍犬」、金谷五郎三郎「打出し布袋図菓子器」、内島青鳳「大國天」、山本雲涛「福祿寿」他30点展示した。

銅器産業の街高岡と共に歩んだ本校の素晴らしい収蔵品の公開に、あらためて歴史の重みを感じていただける展覧会となった。



▲「銅製鸚鵡置物」



▲山崎覚太郎「秋刀魚」

第60回

「第3回
フェローアート展」

8月10日(火)～8月29日(日)

フェローアート展は本校OB・OGで現役を退き、それぞれの在住県で創作活躍をされていた刀祢悦子(33卒)、宮越清光(34卒)、八田敏郎(36卒)、忠永勇(37卒)、玉上祐子(38卒)、板倉保(39卒)、林良一(39卒)、古藤健二(43卒)の各氏が、母校を通じた交流と啓発の場として、第1回展を2002年のワールドカップ開催年に行われた。以来4年毎に開催され、今回第3回展を迎えた。出展された作品を展示しながら、互いの健康を喜び、旧交を温める姿が見られた。

本展では、日本画、油彩画、陶芸、水彩画、ミクストメディア等、完成度の高い、個性溢れる作品126点が会場全体に華やかに飾られた。本校元教諭で恩師にあたる陶芸家池上栄一先生も6点の陶芸作品を賛助出品され、好評であった。

出展者の8名は、さらなる研鑽と再会を誓い合われ、4年後の開催に大いに期待が持たれる。



▲集う出品者の皆さん

第61回

「平成16年卒業生
イラスト展」

9月14日(火)～10月3日(日)

平成16年に本校デザイン科を卒業した北川恵樹さん、毛利佑介君、蔵絵梨花さん3人による、コンピュータグラフィック、バステル等で描いたイラスト約30点が展示され、来場者を魅了した。

「不思議の国のアリス」のキャラクターをCGで美しく幻想的に表現した作品、カバやタヌキなどを愛らしくユーモラスな姿に仕上げたパステル画、また、切り絵を使った幻想的なコラージュ作品が、訪れた方々の目を楽しませていた。若者らしい感性で表現された作品は新鮮であり、はつらつとした夢のある作品であった。とりわけ、世代も近い在校生が多数美術館に訪れ、先輩の魅力的な作品群に熱い視線を向けて鑑賞していた。彼らの今後さらなる活躍が望まれる。



▶北川恵樹さんと毛利佑介君との合作による作品

「KOGEE文化部合同展2010」

7月9日(金)～7月30日(金)

恒例ともなった文化部の上半期のまとめである「文化部合同展」が、多くの文化部部員の作品により開催された。美術部、陶芸部を始めとする8つの部に加え、一昨年から機械工学部など工学系の部の展示も行われ、さらに今年から二上工業高校の作品も加え約100点の作品が並んだ。

初日は、午後2時から開幕式を開催し、引続き吹奏楽部によるミニコンサートが行なわれた。とりわけ建築工学部が昨年の「高岡市開町400年祭」を記念して100人がかりで作成した「1/1000の高岡市街立体地図」に人気が集まり高い評価を受けていた。個性あふれる芸術系文化部の作品に将来が楽しみであるといった賞賛の声が聞かれた。



▲作品を見る生徒達

第103回尚美展関連作品展「同窓生作品展」

10月9日(土)～10月17日(日)

伝統ある尚美展が10月16日・17日の両日、好天の中開催された。尚美展に先立ち「同窓生作品展」が9日から開かれていたが、会期中は普段よりも多くの来館者があり、賑わいを見せていた。展示作品は、日本画部門5名7点、洋画部門6名8点、工芸部門3名3点、写真、篆刻各1点の計20点とやや少な目であったが力作揃いであった。

また、16日には創校記念講演会の講師にお招きした米林雄一東京芸術大学名誉教授が常設展と本展を鑑賞され、同級生の本保勝弘氏の作品「鯉」や、道吉勝重氏の郷土にちなんだ作品「千寿ヶ原」・「剣岳 氷見より剣を望む」、また、岩城大介氏の「昇」、般若保氏の「吹分大花入」等熱心にご覧になり、郷土や母校に対する思いを深められたようであった。

丸井創業者 青井忠治氏の四男 青井忠四郎氏 (株アトム社長) 一行来館

6月14日の午前に、当美術館設立や蔵書の寄贈に大きく貢献された丸井の創業者青井忠治氏の四男である青井忠四郎氏とそのご子息青井茂氏、青井美氏 (NHKアナウンサー・金曜バラエティー等に出演) ご兄弟他社員10名が青井記念館美術館を訪問された。

当館所蔵の青井忠治氏の胸像や遺品等をつぶさに見学され故人を偲んでおられた。特に、お孫さんにあたるご兄弟が忠治氏の胸像を囲んでの写真を撮られたり、その肩を叩かれながら「じいちゃん また来るね!」と言っていることが印象的で感慨深かった。

また、本県出身の彫刻家佐々木大樹氏 (帝国芸術院賞受賞) を大叔父に持つ同社役員 谷井睦弘氏は、美術館収蔵の遺作三点を觀られ感激ひとしきりであった。一行にとって今回の訪問は大変印象深いものであったと思われる。

後日、谷井氏からの返礼に、東京中野の寶仙寺に青井忠治氏のお墓があり、そこに佐々木大樹氏制作による忠治氏の「顔像」(レリーフ作品)と吉田実元県知事による撰書があることが記されていた。
(美術館長・柴田秀紀)



▲青井記念館ホールにて

平成22年度 寄贈作品紹介



◆ 土田宋眞 作 (故人)
「乾漆輪花朱漆盤」
(径34cm×高5cm)
土田貞子様 (故人の次女
(南砺市井波) より寄贈

催事案内

- 第17回青井中美展 11月17日(木)～12月5日(日)
常設展Ⅲ期 (絵画・工芸)
- 12月16日(木)～2月20日(日)
- 第63回同窓生ギャラリート 現代の名工「般若
茂雄(宗勘)」個展 12月16日(木)～12月26日(日)
1月6日(木)～1月10日(月)
- 青井大賞展・ヒロシマアピールポスター展
1月22日(出)～2月20日(日)
- 卒業課題展 2月26日(出)～3月3日(木)
- 常設展Ⅳ期 (絵画・工芸)
3月12日(出)～4月7日(木)
- 新収蔵作品展 3月12日(出)～4月7日(木)

計報

本年4月4日、青井記念館美術館運営委員長を永く務められた大角勲氏が、ご逝去されました。美術館の運営にご尽力を頂きましたことに厚く感謝申し上げます、氏のご冥福をお祈りいたします。

はぐくみ会会員募集のお知らせ

はぐくみ会では会員を募集しています。申し込みは日から一年間会員となります。

主な活動

- ・青井記念館美術館への協力・支援
- ・中学生美術展(青井中美展)への支援

特典

- ・企画展等の案内
- ・はぐくみ会だよりの配布

年会費

- ・一般会員(個人) 一、〇〇〇円
- ・特別会員(企業、団体等) 一〇、〇〇〇円

お問い合わせ・申し込み先
青井記念館美術館はぐくみ会事務局

編集後記

今年度より本校は二上工業高校と統合され、新たな高岡工芸高校として歩み始めました。美術収蔵品も760点余を超えましたが、作品の中には破損や傷みのあるものもあり、先般、二宮金次郎像や軸物を新しく表装するなど、校内の職員や業者に依頼し数点の作品の修復を行いました。収蔵品の状態を確認することで、これまでに見落としていた作品を見直す良い機会となりました。今後も、収蔵品の良好な保存に十分配慮して管理していきたいと存じます。

今年度より城宝清司前館長の後を引き継ぎ、柴田秀紀新館長が勤めることとなりました。宜しくお願いたします。
(中野 記)

編集発行

富山県立高岡工芸高等学校
青井記念館美術館はぐくみ会
住所 番 933-8518 高岡市中川一丁目二〇
TEL (〇七六六) 二一六三〇 (内線611)
FAX (〇七六六) 二一六三一